

令和7年度

西条市高校生海外スタディツアー報告書

2026年3月7日～3月17日



西条市高校生海外スタディツアー実行委員会

目次

1	派遣日程	3
2	参加者名簿	4
3	引率者報告書	
	「スタディツアーを通して感じた高校生の可能性」	
	西条高等学校教諭 仲野 充洋	5～6
	「Message to the students about their San Francisco tour.」	
	西条市国際交流協会 Westrop Richard John	7
	「体験・吸収・その先へ」	
	西条市観光振興課 村上 桜	8
4	参加者報告書	
	「スタディツアーで学んだこと」	西条高等学校 森田 凧海 9
	「環境について学んだこと」	西条農業高等学校 川崎 莉水 10
	「スタディツアーに参加して」	西条高等学校 田中 春陽 11
	「国境を越えた新しい出会いと学び」	今治西高等学校 矢野 心乃美 12
	「サンフランシスコでの研修で学んだこと」	西条高等学校 越智 美晴 13
	「サンフランシスコで得たもの」	西条高等学校 藤間 陽菜 14
	「スタディツアーで学んだこと」	西条高等学校 新本 里花 15
	「スタディツアー」	新居浜東高等学校 國田 基琉 16
	「スタディツアーで学んだこと」	西条農業高等学校 曾我 宗玄 17
	「海外での出会いと学び」	丹原高等学校 余吾 舞果 18
	「スタディツアーで学んだこと」	西条高等学校 渡部 悠太 19
	「My Experience in San Francisco」	新居浜西高等学校 土岐 悠 20
	「スタディツアーを終えて」	西条高等学校 松本 莉緒 21
	「スタディツアーでの経験」	新居浜西高等学校 小池 悠月 22
	「スタディツアーで得たもの」	丹原高等学校 荒巻 志穂 23
5	報告会発表資料	
	History（歴史）班	24
	School Life（学校生活）班	25
	Volunteering（ボランティア）班	26
	Food（食）班	27
	Entertainment（エンターテインメント）班	28
6	サンフランシスコ研修中の様子	29～30

派遣日程

※HS:ホームステイ
 ※HF:ホストファミリー
 ※GWHS:ジョージ・ワシントン高校

	日時	活動内容	交通手段	宿泊	朝食	昼食	夕食
1日目	3月7日 土	移動日	11:15・西条市役所大会議室に集合 11:30・出発式 12:00・西条市役所出発 13:10・松山空港到着、荷物預け等 16:45・松山空港出発 18:15・羽田空港到着、乗り換え、出国手続き 22:55・羽田空港出発	貸切バス NH596 NH108	機中泊	自由食	機内食
		15:20・サンフランシスコ国際空港到着 入国手続き、手荷物受取 17:00・ホストファミリーと対面後、各家庭へ	HF	HS①			HS
2日目	3月8日 日	ワシントン高校生とサンフランシスコツアー	10:00・Pier39に集合 スカベンジャーハント(Musee Mecanique等) 11:30・In-N-out Burgerで昼食 ゴールデン・ゲート・ブリッジ フォート・ポイント 16:30・解散@Golden Gate Bridge Welcome Center, ホームステイ先へ	徒歩 Muni Bus		HS	GWHS HS
				HS②			
3日目	3月9日 月	ジョージ・ワシントン高校での交流①	8:30・登校 歓迎集会 校内ツアー プレゼン・アクティビティ練習 ウェルカムランチ 16:00・ホームステイ先へ	—		HS	GWHS HS
				HS③			
4日目	3月10日 火	課外活動①	8:30・GWHS出発 9:30・カリフォルニア大学バークレー校ツアー 学食 14:00・在サンフランシスコ日本国総領事館表敬訪問 15:30・表敬訪問終了後GWHSへ戻る 16:00・ホームステイ先へ	貸切バス		HS	市 HS
				HS④			
5日目	3月11日 水	ジョージ・ワシントン高校での交流②	8:30・登校 8:40・プレシディオ中学校でプレゼン・アクティビティ 12:20・ウェルカムランチ@GWHS 13:15・セラミック記念品作り 14:45・ボランティア活動@ABC Pre schoolまたはGWHS ジョージ・ワシントン高校に戻る 16:00・ホームステイ先へ	徒歩 徒歩		HS	GWHS HS
				HS⑤			
6日目	3月12日 木	課外活動②	8:30・登校 サンフランシスコフィールドトリップ (サンフランシスコ市役所、ジャパントウン見学) スーパー(SAFE WAY)で昼食購入 13:00・カリフォルニア自然科学博物館 ジョージ・ワシントン高校に戻る 16:00・ホームステイ先へ	Muni Bus Muni Bus		HS	自由食 HS
				HS⑥			
7日目	3月13日 金	ジョージ・ワシントン高校での交流③	8:30・登校 プレゼン・アクティビティ(1.3.4.5.6限) 12:30・さよならランチ(手巻き寿司パーティー) 15:00・ゲーム・ダンス等 16:30・ホームステイ先へ	—		HS	GWHS HS
				HS⑦			
8日目	3月14日 土	ワシントン高校生とサンフランシスコツアー	10:00・Ferry Plazaに集合 ファーマーズマーケット チャイナタウン サンフランシスコ中心街(Trader Joe's, Pop-Mart, Nintendo Store SF, Apple Store等) 16:30・ユニオン・スクエアに集合 解散・ホームステイ先へ	ケーブルカー 徒歩		HS	自由食 HS
				HS⑧			
9日目	3月15日 日	ホストファミリーとお別れ	自由行動 20:00・サンフランシスコ国際空港到着後、出国審査等	HF		HS	HS HS
10日目	3月16日 月	移動日	1:20・サンフランシスコ国際空港出発 移動中	NH107 —	機中泊	機内食	
11日目	3月17日 火	移動日	4:40・羽田空港到着、入国審査、乗り換え、荷物預け直し 7:15・羽田空港出発 8:45・松山空港到着 9:30・松山空港出発 10:30・西条市役所到着後、解散 ※到着時間は交通状況により前後することがあります。	NH583 貸切バス		機内食	

参加者名簿

No	氏名	所属等	班	団長/班長	研究テーマ	
参加者	1	モリタ ナギ 森田 凧海	西条高等学校	1班		歴史
	2	カワサキ リミ 川崎 莉水	西条農業高等学校			学校生活
	3	タナカ ハルヒ 田中 春陽	西条高等学校			ボランティア
	4	ヤノ コノミ 矢野 心乃美	今治西高等学校		班長	食
	5	オチ ミハル 越智 美晴	西条高等学校			エンターテインメント
	6	トウマ ヒナ 藤間 陽菜	西条高等学校	2班		歴史
	7	ニイモト リカ 新本 里花	西条高等学校			学校生活
	8	クニタ キリュウ 國田 基琉	新居浜東高等学校			ボランティア
	9	ソガ トシハル 曾我 宗玄	西条農業高等学校			食
	10	ヨゴ マイカ 余吾 舞果	丹原高等学校		★団長 班長	エンターテインメント
	11	ワタナベ ユウタ 渡部 悠太	西条高等学校	3班		歴史
	12	トキ ハルカ 土岐 悠	新居浜西高等学校		班長	学校生活
	13	マツモト リオ 松本 莉緒	西条高等学校			ボランティア
	14	コイケ ユツキ 小池 悠月	新居浜西高等学校			食
	15	アラマキ シオン 荒巻 志穂	丹原高等学校			エンターテインメント
引率者	19	ナカノ ミツヒロ 仲野 充洋	西条高等学校	—	—	
	20	Westrop Richard John	西条市国際交流協会 (西条小学校ALT)	—	—	
	21	むらかみ さくら 村上 桜	西条市観光振興課	—	—	

スタディツアーを通して感じた高校生の可能性

西条高等学校 仲野 充洋

今回、引率者の一人として、本スタディツアーに参加させていただいた。担当者同士で入念な打合せを行い、出発前の事前研修を何度も重ねることで、参加生徒のモチベーションを高めながら、如才なくスタディツアー当日を迎えることができたのではないかと思います。

出発前は期待と不安の入り混じった表情を見せていた参加生徒達も、サンフランシスコの地に降り立った後は、とても生き活きとした姿を見せてくれた。同年代の buddy と一緒に過ごすうちに、すぐに異文化に溶け込んでいく姿は、10代の順応性の高さを感じさせるのに十分であった。生徒達の日々の成長を感じることができるのも、このようなスタディツアーの魅力の一つであり、引率者も大いに楽しませていただいた。

ここからはツアーの中での生徒の様子を紹介していきたい。

ツアー全体を通してお世話になったジョージワシントン高校では、授業への参加や、校内散策、プレゼンテーション発表から文化アクティビティ実施まで多くの活動を行った。こちらが準備してきた発表やアクティビティに意欲的に参加してくれたワシントン高校の生徒の温かさがあがりたく、日米の高校生同士の交流はとても微笑ましかった。



Pier39 やサンフランシスコ市役所で Scavenger Hunt を行った。見知らぬ人に英語で質問するのは怖いものだが、最初は逡巡しながら質問していた生徒達も、慣れてくると積極的に質問相手を探し、とても堂々と会話していた。まさに10代の順応性の高さを感じた瞬間であった。

カリフォルニア大学バークレー校訪問では、海外の大学の雰囲気を感じることができ、生徒達は皆、圧倒されていた。歴史を感じさせる広大で美しいキャンパスから、多くのインスピレーションが得られたのではないだろうか。



サンフランシスコ市役所での集合写真

日本国総領事館表敬訪問の際には、総領事に対して多くの質問をすることができた。高校生からの等身大の疑問に対して、総領事は一つ一つ丁寧に自身の考えを述べてくださり、その答えは含蓄に富んだものであった。このような機会は、生徒達に新たな視座を与えてくれるすばらしいものであったと感じる。

参加した高校生達は、本スタディツアーを通して、異文化交流とは何なのかを身をもって理解することができたはずである。そして、この経験が

らの学びを、今後の人生に最大限活用してくれることを願ってやまない。

最後に、本スタディツアー実施のために御尽力くださった全ての方々に感謝申し上げます。皆様のおかげで、本当に素晴らしい学びの機会となりました。この学びを自分達だけのものにするのではなく、様々な機会を得て発信・普及し、できる限り多くの人と共有することで、恩返しになると考えております。今後とも、西条市高校生海外スタディツアーが継続され、西条市の発展に寄与していくことを強く願っております。本当にありがとうございました。

Message to the students about their San Francisco tour.

Richard Westrop

Did you have a good chance to learn in America? During our pre-trip sessions you made 5 study groups, History, School Life, Volunteering, Food/Culture, and Entertainment. You presented about these themes, and you asked our American people some interesting questions too. I hope that you have found some similarities also differences between Japan and America.

Did you make some good friends in San Francisco? Some of you hosted American students last summer and then during this trip you stayed with them or met up with them again. This has been a wonderful opportunity to create new relationships and to deepen your existing relationships. You now have a chance to send birthday cards or Christmas gifts and so on to maintain the warm friendships that you now have. Perhaps in the future you will meet again, I sincerely hope that you do. I have enjoyed deepening my friendships too. I have known Mr. Morikawa, a Japanese teacher at George Washington High School, for a few years but this time I was able to make a friendship with Ms. Matsuura a Japanese teacher too. I very much hope that they will come again to visit us in Saijo and enjoy time with the next generation of Saijo students.

What are your most interesting discoveries during this tour?

Perhaps you realized that you can now communicate well in English, and with a little more experience you will be able to share your thoughts and ideas with people from other countries too. Maybe you can think more about your choices when you leave high school, I hope you would like to visit other countries so that you can compare them with America and Japan. Perhaps you realized that you would like to spend more time in other societies. I think that you will again have that chance if you continue to challenge yourself to join programs like this one.

As I write this, America is a country at war. You know from your experience that the American people are kind and helpful. It is very important in your future to deepen your global understanding, to develop empathy and an ability to listen to many people and from different cultures, to negotiate with others. Please ask yourself this question. What can I do in my daily life to become a successful person with a deeper global understanding? What should I change?

Enjoy your remaining High School days and continue to challenge yourself.

Golden Gate Bridge Poster



UC Berkeley Campus Tour



体験・吸収・その先へ

西条市観光振興課 村上 桜

本事業は、市内高校生が海外でのホームステイや同世代の学生との交流を通して異文化に触れ、多様な価値観を理解することにより、将来、国際社会で活躍できる人材の育成を目的としている。グローバル化の進展や人口減少に伴い、本市においても国籍や文化の多様化が進んでいる。一方、多文化の共存が進む中、コミュニティ間の分断も課題として顕在化しつつある。こうした時代において、人々の「つなぎ手」となり得る人材の育成が不可欠である。異文化の存在を理解し寛容に受け入れ、より良い社会の実現に向け自らの考えを的確に伝え、主体的に行動できる人材の育成に向け、異文化交流の意義はますます高まっている。

引率者として、生徒15名の間近で現地生活や交流の様子を見守る中で、本事業の目的は十分に達成されつつあると実感した。約一週間、慣れない環境で言語や生活習慣の違いに直面しながらも、五感をフル稼働させ、サンフランシスコの空気、人々の考え方や価値観を吸収しようと試行錯誤している生徒の姿が私の目に焼き付いている。



ホームステイ先は日系・中華系・モンゴル系・フィリピン系等様々なバックグラウンドを持つご家庭であった。各ご家庭で日常生活を送る中で、日本文化、アメリカ文化と大きな枠組みで文化を捉えるのではなく、家庭さらには人間一人一人が独自の文化を持ち、認め合いながら共存しているということを理解できたのではないかと。交流校であるジョージ・ワシントン高校や在サンフランシスコ日本国総領事館では、世界で活躍する日本人の方々と対談できた。自身の夢、目標、各班の研究テーマ（歴史・学校生活・ボランティア・食・エンタメ）に関する疑問を投げかけ、実体験に基づく知識や助言をいただいたことは、大きな刺激になっただろう。何より、ワシントン高校の同世代の仲間との交流は忘れがたい思い出であり、喜びであったはずだ。自身の責任に基づき自由な学校生活を送り、勉学、目標、趣味を追求する現地学生の姿を見たことは、自分の現状、今後すべきこと、新たに挑戦したいことを明確化するとともに、自身や世間の当たり前に疑問を抱く力も育んだ。

最後に、私が今後参加者に期待することは次の二点だ。第一に物事に対する問いかけをやめないこと。第二に失敗を恐れず行動すること。当たり前を認め思考を止めることで成長は止まる。米国での経験を比較材料とし、周りの物事に常に疑問を見出し、自分自身の考えを見つけてほしい。自身の考えの是非に関わらず周りに共有し議論することで、より良い答えを見つけてほしい。常に試行錯誤しながら多様な考えや価値観を学ぶことで、将来彼らが「つなぎ手」として活躍してくれることを期待する。



スタディツアーで学んだこと

西条高等学校 森田 凧海

私がスタディツアーに参加した理由は、アメリカの文化と日本の文化の違いを自分自身の身をもって体験したいと思ったからだ。これまで学校の授業や西条高校に来ていた留学生などに話は聞いたことがありましたが、実際に行ってみないと体験できないことや現地の人々に関わることでしか得られないものがあるのではと思った。

アメリカに到着後は不安がいっぱいで言語もわからない、知らない場所で知らない人々に関わるのが怖くてせっかくのチャンスなのにあまり積極的に行動することができなかった。ホストファミリーの方々は温かく私を迎えてくれたのに中々自分から話しかける勇気が出なかった。しかし、生活の中で自分の意見を言ったり一緒に買い物をしたりしていくうちにだんだん自分の意見を言えるようになってきた。



ジョージ・ワシントン高校に見学に行ったときその学生はみんな自由で自分のやりたいことをしている感じがしてすごく楽しそうだった。そこで私も何事も挑戦楽しんでやってみようという気持ちになった。間違えてもいいからどんどん話してみようと思えた。

さらに、ホームステイや現地での学校生活を通して日本との文化の違いを実感できた。例えば、授業の雰囲気、家庭での過ごし方など日本とは違ったものがあり新鮮だった。仲良くなったホストファミリーの子は放課後や休日に博物館などに連れて行ってくれたり乗り物に乗る時など必ず先に乗らせてくれたりと相手を思いやる気持ちに触れることもできた。

このスタディツアーを通して、私は失敗してもいいからとにかくチャレンジしてみることに、どこに行っても人との関わりを大切にすることの重要性を学んだ。最初は不安でいっぱいだったが、一歩踏み出してみると今までは気づけなかったものに気づくことができた。もっと自分を出していい、やることすべて楽しんで飛び込んでみればいい。そういった気持ち



にこのスタディツアーに参加して気づくことができた。自分の視野がさらに広がったことで進路のことや将来の見え方が変わってきた。今はなりたいものが明確にあるわけではないが、自分が興味がある、やってもいいと思ったことは迷わず飛び込んでいける、そんな自分でありたい。そして、私は相手のことを考え相手のために行動できるような人になりたいと思う。

環境について学んだこと

西条農業高等学校 川崎 莉水

私が10日間のスタディツアーの中で一番驚いたことは毎日の食事です。

日本では食べ残すことはもったいない、残すと作ってくれた人に申し訳ないという罪悪感



が拭えませんが、初日に行ったレストランでボリュームたっぷりの料理が出てきたとき、家族みんな食べきっていませんでした。もったいないと戸惑っていると、そこには日本にはない仕組みがありました。食べきれなかった分は「ドギーバッグ」に入れて持ち帰るのです。そして次の日のランチなどにして食べるのです。残す=捨てるではないことに驚き、日本も取り入れるべきと思いました。ほかにも外のごみ箱には必ずコンポストが設置されていました。食べきれなかった分や紙のごみはそこに入れられ、有機肥料に生まれ変わります。ただゴミにするのではなく、肥料とし

て再び土に還すサイクルが日常に溶け込んでいることに気づいたとき、私は毎日学校で学んでいる農業としての魅力を感じました。

さらに、食の多様性にも衝撃を受けました。私のホストファザーはベジタリアンでしたがアメリカではなにを食べるかという選択がとても自由でした。レストランのメニューでは肉料理と同じぐらい野菜や魚料理が並んでいました。自分の選択に合わせて「選べる自由」が守られている、そして環境への配慮があることがすごいと感じました。



これまでの私は学校の教科として英語が好きでただただ勉強していました。しかし、この10日間で考えが変わりました。

ドギーバッグやコンポストの仕組み、そして多様な食の選択など言葉の壁を越えて世界中の人が向き合っている「持続可能な社会」への取り組みにすごく魅力を感じました。英語は単なるテストの教科ではなく、世界で起こっている課題を解決するための鍵になると感じました。

私は今、学校で農業について学んでいます。今回の10日間で実際に見た、サンフランシスコの「食べ残しを肥料に変える取り組み」や日本の伝統的な「もったいない文化」をつなぎ合わせると、よりよい食の未来が作れるのではないかなと思いました。私は将来、有機農業やオーガニックについて学びたいと思っています。特に有機農業が進んでいるオーストラリアなどで学びたいと思っています。実際に海外で学んだり話を聞いたりして学ぶために、英語の勉強をこれからも頑張っていきたいです。

スタディツアーに参加して

西条高等学校 田中 春陽

私がスタディツアーに参加した理由は、海外高校生との交流やホームステイ等を通して異文化について学ぶためである。一日目、長いフライトの先に出迎えてくれたのは、ホストファミリーであった。ホストファミリーの両親は、過去に日本で生活していたこともあり、ホストスチューデントも、昨年、日本に留学に来ていたということで、全員が日本に訪れたことがある家庭だった。お父さんは、メキシコ人ということで、初日は、家族でメキシコ料理を食べに行った。翌日は、ワシントン高校生とピア 39 や、ゴールデンゲートブリッジへ行った。ピア 39 で出された課題

では、観光に来ている人々に話しかけるとい
う課題に最も苦戦した。英語を話すことに抵抗は無いと思っていたけれど、いざ見知らぬ人に話しかけるとなると、ものすごく人見知り
を發揮してしまった。しかし、今後、海外で活躍できるような人材になりたければ、この
ような人見知りも改善しなければならない
と思った。ワシントン高校での授業見学で
は、ホストスチューデントのとっている授業が

理系のテクノロジー系で、私の苦手分野だった。生物の先生は、小テストの時間に、授業プリントを一式下さり、あとで翻訳して解いてみるというと言ってくれた。7限目は、ホストスチューデントは、ブラスバンドの活動だった。私は、一切楽器ができないが、活動している音楽室に入れてもらい、演奏をお聞きした。UCバークレーでは、キャンパスが本当に広くて、豊かな自然の中にあり、キャンパスツアーが楽しかった。プレシディオ中学校でのプレゼンでは、事前研修でボランティアは、興味を引きにくく、反応を示してもらえないかもしれないといわれていたのにも関わらず、意外と、反応を返してくれて嬉しかった。消しピンの文化アクティビティでは、学生が消しゴムを持っていないという事実を事前研修で聞いていたが、本当でびっくりした。どうやって過ごすか聞いてみると、そもそも書くことが少ないと知り、これも漢字などの覚える文字が少ないという文化の違いからくるのではないかと考えた。体調不良のため、活動に参加できたのはここまでだったが、ホストファミリーにうどんをふるまったり、観光に連れて行っていただくなど



ホストファミリーと夕食にメキシコ料理



最後までサンフランシスコを満喫した。プレゼンの回数が少なかったという心残りは大きいですが、自分のパートをカバーしてくれた、チームと、先生方に大きな感謝をしている。

国境を越えた新しい出会いと学び

今治西高等学校 矢野 心乃美

この研修は私の将来の展望を広げるとても良い機会となった。初めての海外研修は、私にとって大きな期待とともに、少なからず不安も感じさせるものであった。しかしホストファミリーと共に過ごした一週間を振り返ってみれば、そんな不安は杞憂であったと分かる。彼らはとても暖かく私たちを出迎えてくれ、英会話力がまだまだ未熟である私たちのために出来るだけ簡単な英語で話してくれた。特に、私のホスト生徒である Theo はジョージ・ワシントン高校で日本語の勉強をしているので、私が日常生活でわからない英語があったときに簡単な日本語で説明してくれたりした。そんなホストファミリーの優しさから、初めは相手に伝わるか不安でどこちなかった私の英語も、少しずつ流暢なものへと成長していき、ホストファミリーや現地の人と英語で話すことが楽しいと思えるようになった。もともと私は海外の人に対して、海外の人と話すときはちゃんとした英語で話せないとダメだという偏見を持っていたが、サンフランシスコで生活してみて、海外の人と話すときは、自分の意見を相手に伝えようとする意思が大切だと思った。



ホストファミリーとの思い出

私がサンフランシスコで得た学びは数え切れない程である。私は、ジョージ・ワシントン高校での授業見学やプレゼンを通して、海外の学校では、日本と比べて校則や雰囲気は比較的自由であり、生徒一人一人の個性が尊重されていると感じた。また、海外の学生はみんなフレンドリーでノリが良く、プレゼンをしていてとても楽しかった。アメリカのご飯については、どれもカロリーが高そうで幸福感もあったが背徳感も多く、日本の伝統的なご飯がどれだけ栄養バランスの考えられたものであったかを改めて感じさせられた。

今回の研修では、研修に関してだけでなく、自分の将来のためになる発見もたくさんあった。私は将来次世代自動車の開発に携わりたいと考えているので、サンフランシスコの交通環境について調べてみた。調べていく中で驚いたことはサンフランシスコの交通手段の多様さである。現地では「Waymo」という無人タクシーのほか、ケーブルカーなどが普及しており、最先端でありながらも地形に合わせた交通手段があると分かった。また、現地のバスのほとんどが電気の力で動いており、ガソリンを使わないのでとても静かで環境に良いと分かった。調査を通して、サンフランシスコの交通環境について、日本も見習うべき所がたくさんあると感じた。

この研修から私は、実際に海外に行って生活することは、異文化理解だけでなく、自身の英語コミュニケーション能力を上げ、将来の可能性を大きくすることにもつながると確信している。将来グローバルな場面で活躍する人材を育てるためにも、日本でも教育活動の一環として海外での研修の機会がもっと増えることを期待したい。また、私は今回の経験で得たことを今後の成長につなげ、さらに努力していきたい。

サンフランシスコでの研修で学んだこと

西条高等学校 越智 美晴

私はこのスタディツアーで、海外高校生との交流やホームステイ等を通して英語を聞き取る力、話す力を身に着けたいと思い参加を決めた。また、六月のワシントン高校生の受け入れを通して日本とアメリカの文化の違いについて実際に体験してみたいと思ったのも参加の理由の一つだ。この研修では、サンフランシスコの高校生と日本の高校生の違いや、生活文化の違いを強く肌で感じた。高校生活では、授業の受け方の自由さに衝撃を受けた。お菓子などを食べながら授業を受けたり、遅刻や授業中に立ち上がったりのも許容されていて驚いた。他にも、自由な髪型と服装、ピアスなどが許されているのも多様性や多文化を尊重するアメリカの特徴がすごく反映されているように感じた。LGBTQや障害者の方に対しても当たり前のように理解や配慮がされていた。日本では、自分と違うと感じると距離を置く風潮があると思う。もう少し怖がらずにいろんな人と仲良くなれるような社会になってほしい。

また、私たちはいろいろな観光地で現地の方々にインタビューをする機会があった。お店の人だけでなく観光客の方にもインタビューすることもあり、最初は答えてもらえるか不安だったが声をかけた多くの方が温かく私たちの質問に答えてくださった。つたない英語



現地の方へインタビュー

であったのにも関わらず、聞き取ろうとしてくださるなど本当に親切だった。海外の人にオープンな姿勢もアメリカならではの感じた。私はアジア人差別などがあると耳にしたことがあるがそのようなことは全然なかった。これも偏見や先入観の一つだったのだと思った。

このツアーを通して、私自身も海外文化や人に対して偏見を持っていたことを改めて感じた。そして、実際に自分の目で見て確かめることの重要性を強く知ることが出来た。これまで私は、将来の明確な目標がなかったが、このツアーのおかげで海外の人と力を合わせて何か作り上げる仕事がしたいという夢が出来た。これからはその夢のためにもっと知見を広め、勉学に努めたい。スタディツアーは私にとってかけがえのない思い出となった。このツアーに携わってくださった、市役所の方々をはじめとする多くの皆様、このような貴重な経験をさせていただき本当にありがとうございました。

サンフランシスコで得たもの

西条高等学校 藤間 陽菜

私が海外に興味を持ったのは、昨年、ジョージ・ワシントン高校の学生のホストをしたことがきっかけだ。最初はただの出来心で始めたことだったが、一緒に過ごすうちに新しい発見や出会いがたくさんあり、海外に行きたいと強く思った。いざサンフランシスコへ飛び立つ日、私は新しい世界に胸が膨らむとともに不安を抱えて飛行機に乗った。サンフランシスコに着いて、ホストファミリーが笑顔で迎え入れてくれる姿を見て、私の不安は一切無くなった。私のホストチューデントは日本語の授業をとっていないが、家族全員が日本のことを全く知らなかったが、私が「いただきます」を教えた



日から、毎日みんなで言うてくれたり、積極的に日本のことについて質問してくれたりする姿に本当に私のことを受け入れてくれているのだと感じ、とてもうれしかった。また、昨年会ったワシントン高校のみんなとも再会し、サンフランシスコに来てよかったと心から感じた。私のスタディツアー中の目標の一つに、たくさんの人と話して英語力を向上させるというのがあった。そのため、私は様々な場所で、億劫せずに話しかけようと心掛けた。しかし、私が話しかける前にあちらから話しかけてくれることが多くて、人見知りしない国民性



に驚いた。特にワシントン高校では、私が聞き取れなかったときはもっとわかりやすい単語で伝えてくれたり、私のつたない英語も熱心に聞いてくれたりと、時間がかかっても会話を続けてくれる姿勢にとっても助けられた。そのおかげで、たくさんの人と友達になれた。また、サンフランシスコの多様性という文化に関心があったので、その文化に触れたときは積極的に知ろうとするということも目標の一つだった。私は、最初、レインボーフラッグの印象しかなかった。しかし、日本国総領事館に行ったとき、サンフランシスコの子どもの教育について質問すると、移り住んできた英語が話せない子どもにもローカルスクールで英語が話せる

ような教育が行われていると聞いて、移民を受け入れた後の言語や文化の違いといった壁すら、簡単に超えるところにすごく感動し、日本にも取り入れたいと感じた。このようにたくさんの良い経験ができたサンフランシスコでの最後の日はホストや友達との別れが本当に悲しく、涙があふれた。それほど私の中では大切な10日間であった。私がこのような経験や発見ができたのは全部、スタディツアーに関わったすべての関係者や、ホストを受け入れてくれた方々、保護者の皆様のおかげだ。そのことを胸に刻み、グローバルな教育者になる夢に向かって、これからも頑張っていきたい。

スタディツアーで学んだこと

西条高等学校 新本 里花

私がこのツアーに参加した目的は英語を話す力をつけることとアメリカの文化を知ることだ。

空港でホスト家族に会うと、お母さんはなんと日本人だった。そのため生活に不便をすることはなかった。しかし、お父さんはいつも晩御飯の時間にその日のできごとなどを聞いてくれたが、英語を話すスピードが速くてなかなか聞き取れず落ち込んだ。でも、拙い英語でも自分から頑張って話しかけようと意識した。質問の答えだけでなく、もう一言自分から話すと、良い反応を貰えて嬉しかった。自信がなくても積極的にコミュニケーションを取ることの大切さを感じた。

学校見学の日には驚きの連続だった。広い廊下の両側には赤いロッカーが並び、学園映画を見ているようだった。校則や時間のきまりは日本よりも緩く感じた。友達や先生と話しながら進める授業が多く、生徒は口々に意見を言い、活発に議論が進められていた。自分の意見を進んで主張できるところが良いなと思った。ほかにも日本と異なる点が学校にはたくさんあり、それぞれの国の国民性が形成される場所のひとつに学校があるのではないかと考えた。アメリカの文化を肌で感じられる経験になった。

放課後はアメリカの高校生とたくさん話せる良い機会だった。学校が終わると、ホスト生徒の Joshua はいろいろな場所に連れて行ってくれた。彼の友達が登場するときもあり、会話が弾んだ。ツアー終盤の日、ジョージワシントン高校のみんながアクティベイトというスポーツ施設に連れて行ってくれた。ピザを食べたあと、グループに分かれてスポーツをした。西条の生徒は英語が、ワシントン高校の生徒が日本語が少しだけ話せるという中、言語の壁を感じずとても楽しい時間となった。中心となってくれた Alex に感謝を伝えると「おもてなしだよ！」と言ってくれた。日本の精神を知り重んじてくれていることが本当に嬉しかった。そして、大切なのは言語の上達だけでなく相手をおもいやる気持ちなのだと考えた。

このツアーを通して、もっと英語がはなせるようになりたいと思った。サンフランシスコで、様々な文化や



価値観に触れることができ本当に良かった。この刺激を忘れず、学びを深めていきたい。

スタディツアー

新居浜東高等学校 國田 基琉

私がこのスタディツアーに参加することが決まった時に、ほんとうに私が参加していいのか、サンフランシスコで生活することができるのかと楽しみよりも不安な気持ちが強かった。私は全然英語ができない。先生は大丈夫だと言ってくれたがそれでもアメリカに着くまではとても心配だった。しかし、空港に到着してホストファミリーと会うと一気に不安だった気持ちが吹っ飛んだ。それはホストのエドワードがものすごく日本語が上手で私の拙い英語でも意思疎通ができたからだ。そして家に着きエドワードの家族全員とあいさつをしたら全員が快く私を向かい入れてくれた。私はその時このツアーに参加できてよかったと初めて思うことができた。

サンフランシスコ 1 日目はピア 39 でスカベンジャーハントをした。その時もエドワードは私を手伝ってくれて分からない英語が来たら分かりやすく説明もしてくれ私はとても楽しく活動することができた。2 日目から 6 日目まではパークレー校やワシントン高校での活動だった。2 日目、初めてのワシントン高校で学校の生徒たちと馴染むことができるかととても心配だった。しかし、エドワードが僕のことを真っ先に紹介してくれ、ワシントン高校の友達とすぐに仲良くなることができた。そこから 6 日目までは楽しい学校生活を送ることができた。6 日目のお別れ会では、放課後に予定があり終わったらすぐに帰ってしまったが、この 5 日間で仲良くなった友達やお別れ会で仲良くなった友達とたくさん写真を撮ったりお話をしたり、遊ぶことができてもう会うことは無いかもしれないという気持ちよりも、ものすごく楽しいという気持ちやまた会いに来たらまたこうやって楽しむことができるという気持ちになった。最終日はツアーで参加してる男子 3 人とそのホストを含めた 6 人で最後の観光をした。お昼はチャイナタウンで小籠包やゴマ団子と言った中国の定番料理をたくさん食べた。どれも想像以上に美味しくここへ来て食べたいと思った。その後解散して、家族と最後の夜ご飯を食べたあと空港へ向かった。私はまだ日本に帰るとい現実を受け入れることができなかった。しかしすぐに空港に着いてしまい、また会いに来ると約束してお別れをした。私はこの 10 日間でかけがえのないもの思い出と経験をした。この経験を日本に帰っても活かしていきたいと思う。



ワシントン高校

は楽しい学校生活を送ることができた。6 日目のお別れ会では、放課後に予定があり終わったらすぐに帰ってしまったが、この 5 日間で仲良くなった友達やお別れ会で仲良くなった友達とたくさん写真を撮ったりお話をしたり、遊ぶことができてもう会うことは無いかもしれないという気持ちよりも、ものすごく楽しいという気持ちやまた会いに来たらまたこうやって楽しむことができるという気持ちになった。最終日はツアーで参加してる男子 3 人とそのホストを含めた 6 人で最後の観光をした。お昼はチャイナタウンで小籠包やゴマ団子と言った中国の定番料理をたくさん食べた。どれも想像以上に美味しくここへ来て食べたいと思った。その後解散して、家族と最後の夜ご飯を食べたあと空港へ向かった。私はまだ日本に帰るとい現実を受け入れることができなかった。しかしすぐに空港に着いてしまい、また会いに来ると約束してお別れをした。私はこの 10 日間でかけがえのないもの思い出と経験をした。この経験を日本に帰っても活かしていきたいと思う。

スタディツアーで学んだこと

西条農業高等学校 曾我 宗玄

私がスタディツアーに参加した理由は二つあり、一つ目は自分は海外に行ってしたいことがありそれが海外で日本料理のお店を開きたいです。二つ目が国によって環境とかが違うと思うのでその様な細かいところも知りたいと思いこのツアーに参加しました。自分は本当にこのスタディツアーに参加できてよかったと思います。なぜかという、まず入国審査の時にうまく英語が聞き取れなくてちゃんと返せなかったことがとても焦りました。一日目からチャイナタウンにいきまず一番最初に道路の真ん中で花火を挙げていることがびっくりして日本ではしないことをしていたので迫力がありました。ワシントン高校では初めましてでもみんなフレンドリーで先生も生徒も面白かったし授業中に映画を見たりお菓子やジュースを飲みながら受たり日本と違って時間に縛られて一人一人が自分の個性を生かしていたところがかっこよくて魅力的でした。ハンバーガー屋さんに行ってもジュースが飲み放題で公共交通機関は社会人になるまでは無料なのがすごかったし、移動の仕方がみんな最先端なのがすごかったです。先生たちから聞いたびっくりすることがあって自動販売機やガチャポン、クレーンゲームが全部カードでの支払いで理由が日本みたいに現金だと機械にたまりそれを盗むひとがいるからカードの支払いにしていることがわかりました。僕の中で一番の思い出はみんなで体を動かすスポーツのゲームをしたことです。西条のみんなとホ



ホストファミリーとの思い出



チャイナタウンの風景

ストファミリーのみんなでグループに分かれて遊んだのでとてもいい経験ができたしほんとうにいい思い出が作れてほんとうに来てよかったと思いました。自分はここにきていい経験もできて、いろんな出会いといろんな体験もして自分でも思うくらい成長したと思いました。ほんとうにスタディツアーの関係者と保護者にとっても感謝していますし、この旅をみんなで過ごせたので良かったです。この経験を自分の夢にも活かせるようにしたいです。

海外での出会いと学び

丹原高等学校 余吾 舞果

本ツアーは私にとって初めての海外渡航となった。英語での会話を楽しみながら異文化理解に努めることを目標とし、海外への憧れに期待を膨らませながら研修に臨んだ。

本ツアーで最も印象深かったことは、日本の高校との違いの大きさである。授業開始時間に遅れて入室したり、お菓子を食べながら参加したりするなど、その自由度の高さに驚いた。また、渡航前に抱いていたアメリカの学校へのイメージとは異なる点も発見できた。スマートフォンの使用は授業中は禁止されていたり、宿題が教科ごとに出されたりするなど、日本の学校と似ている部分もあり、とても興味深かった。ある意味で、文化や価値観の違いを最も強く感じられた場所は学校であったのかもしれないと実感している。

ホストファミリーの家でのホームステイ生活は非常に充実したものであり、ホスト生徒である Alex やホストファミリーのおもてなしに深く感動した。何よりも楽しかったのは食事の時間である。ホストマザーが作ってくれた夕食はとても美味しく、料理について説明を受けながらお互いのことを話す時間は本当に楽しかった。また Alex の家にはカナダの大学生の女性も滞在しており、彼女とも食事の席で多くの会話を楽しんだ。

さらに、サンフランシスコ市内の観光も非常に貴重な体験となった。ツアー中には多くの美しい景色や建物を見ることができ、サンフランシスコのさまざまな魅力を体感することができた。帰国後に現地で撮影した写真を見返すと、どの写真にも澄み渡る青空と、ツアー参加者や現地高校生の弾けるような笑顔が写っており、とても印象的であった。ツアー中のもう一つの魅力は、他の参加者のホスト生徒とも多く交流できた点である。ツアー終盤では、さまざまな人と会話をすることができ、非常に有意義で楽しい時間となった。

全員で活動した後の放課後にもホスト生徒たちと多く交流した。ツアーで訪れることができなかつた場所を案内してもらったり、他の参加者のホスト生徒の自宅を訪れて談笑を



楽しんだり、本当に濃い経験をする事ができた。特に印象に残っているのは、大勢でお好み焼きを作ったことである。日本から持参した材料に加え、現地で調達した食材を使ってお好み焼きパーティーを開いた。ホスト生徒だけでなく、ツアー参加者も久しぶりの日本食を喜んでくれてとても嬉しかった。また、日本食を紹介する良い機会にもなり、食材の説明をしながら

作り方を知るのも非常に楽しかった。この10日間で、英語への興味や異文化への関心がさらに高まった。また日本の文化を紹介することへの楽しさや嬉しさに気づくことができた。新たな自分への成長を目指して、大学進学後、そして社会人になってからも海外に挑戦していきたいと思う。

スタディツアーで学んだこと

西条高等学校 渡部 悠太

私がスタディツアーに参加した理由は、異文化に興味があり、現地の高校生と交流することで、自分と同年代の学生がどのようなことを学校で学んでいるのかを知ると同時に自分の英語力を向上させたかったからである。現地に行く前は、後者にもつい目がいてしまっていたが、サンフランシスコで過ごすにつれホストやワシントン高校の学生と交流し、関わりを持つことの重要性というものに気付かされた。ホストやほかの学生と放課後に遊びに行ったり、休日には一緒にショッピングに行ったりと、今考えても溢れんばかりの思い出がよみがえってくる。渡米してすぐは初めての海外に少し緊張し、不安を感じることもあったが、現地の人のフレンドリーさのおかげですぐに溶け込むことができ、たくさんの友達を作ることができた。異文化理解という面では、現地の学校への訪問やフィールドワークを行ったことで日本との違いを実感することができた。衝撃的だったのは、授業中に生徒のみならず先生までお昼ご飯を食べていたことだ。日本ではありえない光景過ぎて唖然とした。また、放課後には15分程度ではあるが生徒が売店を開店し、衣類を販売していた。売り上げがどう使われているのかはわからないが、自分と同年代でモノを売っている姿はカッコよく、将来にも役立つと思った。

個人的に大きな収穫となったのは、日本国総領事館を訪問したことである。実際に大槻さんにお会いして、外交官の仕事内容やアメリカのような多民族国家を構成する上で大切なことなどを学ぶことができた。

サンフランシスコには様々な国にルーツを持つ人が多くおり、特に、中国系の方々が多いように感じた。そのためかサンフランシスコには巨大なチャイナタウンが形成されており、そこに並ぶ店の外装や中国語表記の値札から、本当に中国にきたような気分になった。しかし、町の公衆衛生はいい状態とは言えず、道端にはごみがポイ捨てされている、といったサンフランシスコの問題について考える良い機会となった。



ホストファミリーとお別れ

このツアーに参加したことで、主に忘れることのできない仲間やホストとの思い出、異文化理解、国際関係への興味関心を得ることができた。この経験を自信とし、これからのグローバル化社会で活躍する人材になりたい。



ホストのライアンと一緒に

My Experience in San Francisco

新居浜西高等学校 土岐 悠

私にとってサンフランシスコで過ごした10日間は今までの私の固定観念を大きく揺るがす貴重な経験となった。実際に海外で生活し、現地の人々と交流する中で日本では触れることのない文化や考え方に沢山出会うことができた。

特にジョージ・ワシントン高校での交流が印象に残っている。日本の学校とは違い、生徒たちは自分の意見をはっきりと伝え、授業でも自由に発言している姿が印象的だった。さらに、服装や髪型も個性的で、それぞれが自分らしさを大切にしていると感じた。多様な文化や価値観が共存していることを実際に目の当たりにし、多様性を尊重することの大切さを強く実感した。また、日本語だけでなく、スペイン語やロシア語など、多様な言語を高校のうちに学べることに驚いた。多くの人種が共生するアメリカでは、複数の言語を話せることは珍しくないのだとホストファミリーが教えてくれた。私のホストファミリーはお父さんが日本とのハーフ、お母さんが韓国人という、アジア系の一家だった。それなのに何故かスペイン語やロシア語が話せるようで、それにも衝撃を受けた。



ホストファミリーはとても温かく優しく私に接してくれた。それでも言語の違いから上手く言いたいことが伝わらず申し訳なく思うことは多くあったが、一生懸命話していると耳を傾けてくれ、段々とコミュニケーションがスムーズになっていくのを感じた。英語に自信が無いからといって諦めるのではなく、積極的に努力すれば相手も応えてくれることを実感して大きな自信に繋がった。ホストシスターとは夜な夜な恋バナをした。全く違う価値観をもつ相手との恋バナは楽しいだけでなく、意見が食い違うことも多々あったがそれらを通して仲がより深まった。

今回の研修を通して、私は自分の英語力がまだ十分ではないことを強く感じた。しかし同時に、英語でコミュニケーションが取れたときの喜びも感じることもできた。自分の言葉が伝わったときや、相手の言っていることが理解できたときはとても嬉しかった。この経験を通して、もっと英語を勉強して、将来は世界中の人と自由に会話できるようになりたいと思うようになった。サンフランシスコでの11日間は、私にとって視野を広げてくれる大切な時間だった。この経験を通して学んだことや感じたことを忘れず、これからも世界に目を向けながら、自分自身を成長させていきたいと思う。

スタディツアーを終えて

西条高等学校 松本 莉緒

私がスタディツアーに参加した理由は、異文化を自分の目で見て、感じて学ぶためである。過去に参加したことのある先輩の話聞き、スタディツアーへの憧れが大きくなっていったのも理由の一つだ。ホストと初めて対面した空港では、ホストとお父さんが笑顔で出迎えてくれた。初めての海外渡航で不安だったが、すぐに楽しみな気持ちが強くなっていった。

サンフランシスコは、愛媛県と似ているところもあったがやはり大きく違うところもあった。一番大きいところが地形で、坂が多い上に斜面がとても急だった。そのため電動自転車や電動キックボードに乗って移動する人を多く見かけた。高低差が大きかったため、ただ車に乗っているだけでも上下の動きを感じて面白かった。

次に公共交通機関だ。Muni のマークがあるバスや電車には、18 歳未満の人は誰でも無料で乗ることができた。もちろん私たちも何回も利用したが、そのすべてに料金は発生しなかった。最初はいつ支払いをするのか分からずアワアワして

いたが、ホストたちが、払わ

なくて良いよと教えてくれたとき、感動すると共にとても驚いた。最後に学校生活。授業に遅れてくる生徒が多く、先生も特に何も言わないのが驚いた。生徒それぞれのペースを尊重することに重きを置く、という教育方針があるそう。みんな同じように進んでいく日本の教育とは大きく異なっており、衝撃を受けた。ホームステイ中、ホストファミリーに手伝ってもらってそうめんを作った。食べたことがないと言っていたので、受け入れてもらえるか不安だったが、いざみんな食べてみると「おいしい！」と言ってくれた。同じ時に、ホストマザーがアメリカで人気な寿司であるカリフォルニアロールを作ってくれた。「これがアメリカの寿司よ！」と笑って出してくれた笑顔が印象に残っている。日本とアメリカの食を同時に体験できて、とても楽しい夕食だった。

どの瞬間を切り取っても、楽しく、学びのある一週間だった。



スタディツアーでの経験

新居浜西高等学校 小池 悠月

私は今回のスタディツアーが初めての海外渡航であり、アメリカという異国の地への旅に多くの期待と少しの不安を抱えて研修に参加した。事前研修では初めて顔を合わせる仲間が大半であったが、研修を重ねる中で次第に緊張も打ち解けた。FOOD をテーマにした現地でのプレゼンテーションや文化アクティビティの折り紙を試行錯誤しながら計画する時間はとても楽しかった。サンフランシスコの学生に伝統文化を広めるだけでなく、私たち自身の日本文化に対する理解も深まった。

ジョージ・ワシントン高校では生徒たちが自身で選択した教科をのびのびと勉強していた。授業中にスナックを食べたり、メイク・ピアスをしていたり、日本と全く異なる教育形態に驚くばかりだった。現地研修で特に印象に残っているのは、ホストたちと過ごした放課後の時間だ。有名な Bob' s Donuts や大きなショッピングモール、Palace of Fine Arts 等、様々な場所に連れて行ってもらった。街のあちこちに置かれている電動スクーターで坂のまちの涼風を駆け抜け、おしゃれな街の景色を楽しんだ。小高い山から望んだ夜景は、一生忘れられないほど綺麗であった。ある日の放課後、ホストの家に集まってお好み焼きを作った。私たちがお好み焼きを振舞うつもりが、逆にもてなされてしまったのがとてもうれしい思い出だ。他にも白玉づくりなどで、日本の食文化を体験してもらいながら伝えることができ、貴重な経験となった。

また、サンフランシスコは LGBTQ+ コミュニティの中心地として知られている。性別の区別をつけない共用トイレの導入や同性婚の許可など、誰もが生きやすい社会を目指している。実際に訪問した市役所では、同性のカップルが結婚記念写真を撮っていて、日本ではあまり見ない光景だと感じた。LGBTQ+ に関するデモやパレードも行われるようで、一人ひとりが違う個性を持つという多様性が当たり前になっている社会だと学んだ。そしてこのツアーに参加するにあたって私は海外の医療体制について学びたいと思っていた。街では救急車を見ることも度々あり、ホストには民間医療体制を教えてもらった。救急車の料金の有無は場合によって変わることや、病院受診の際にかかる費用がとても高く、苦労している人もいることなども知ることができた。



「サラダボウル」と呼ばれるアメリカ社会では、共生が当たり前とされており、魅力的だと感じた。同時に、新しい海外の友達と活動をしたり、日本の良さをたくさん見つけることができたりと、とても濃く貴重な経験ができた。この経験を将来に活かしていきたい。

スタディツアーで得たもの

丹原高等学校 荒巻 志穂

私がスタディツアーに参加した理由は、日本と海外の違いを肌で感じてくるためだった。初めは、スリや治安を不安に思っていたが、今回行った場所ではみんな優しく接してくれ、安全で楽しい時間を過ごすことができた。

私には、もう1人西条市から同じホストファミリーの家に滞在する子がいた。まずはその子とも仲良くなることから課題だった。最初はホストファミリーともその子とも全く話せず、ただ相槌を打つだけで精一杯だった。しかし、気まずい雰囲気のままこの旅を終わらせたくないと思い、自分から積極的に話しかけるようになった。



音楽の話や好きなものの話をしていくと、意外な共通点があったり、自分の知らなかったりしたことを沢山知ることができた。仲良くなれたことを自信にして、他の西条の仲間やそのバディの子にも声をかけていくことができた。話していて気付いたことは、アメリカの人達はみんな男女関係なく仲良くしていたことだ。そして何より、周りをよく見ていた。席を譲ってくれたり、荷物を持ってくれたりと色々な気遣いをしてくれたため、心が暖かくなる瞬間ばかりだった。




私がこのスタディツアーで一番思い出に残っているのは、ホストファミリーと過ごした最後の日だ。その日のプランは、私のバディが1から考えてくれていた。家族のみんなとWINE TRAINという電車の中で昼食をとりながら雑談をしたことがとても楽しかった。空港へ行く時は夜だったため、お母さんや妹たちとは家を出る時に別れて、お父さんの運転で向かった。家族に感謝を伝えながらハグをしていると、涙が止まらなくなった。絶対にまた会いに行くこと決めた瞬間だった。

私にとっては英語を聞くことも話すこともとても難しく、何度も心が折れそうになることがあったが、翻訳アプリやジェスチャーを使ってお互いにコミュニケーションを取っていたことで、一生繋がりたいと思える人達に出会うことができた。この経験を楽しかったで終わらせず、英語力や多角的に物事を見る力を磨いていくための原動力にしていきたい。

History（歴史）班



プレゼン内容



1. 日本の祝日
→ 新年やこどもの日、文化の日など
2. 日本の文化
→ ひな祭りや七五三など
3. 武士の紹介
→ 武士とは何か、忍者との違いなど

研究テーマ

① 現地の学生に人気のアメリカ史上の人物は誰なのか

② アメリカで一番人気の祝日



研究結果

歴史上の人物

- ・ ジョージ・ワシントン大統領
- ・ アイブシハム・リンカン大統領
- ・ リンドン・ジョンソン大統領
- ・ マルコムX


↓

人気な祝日

No.1 クリスマス

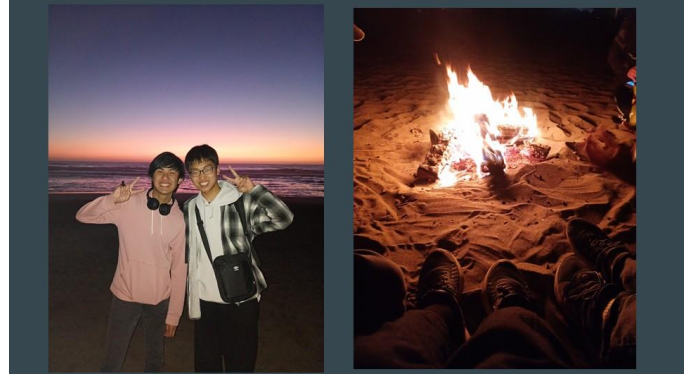
No.2 新年

No.3 XXXXXXXXXX

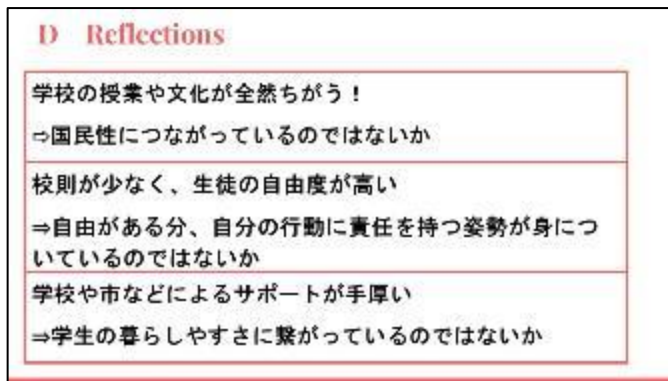


感想

- ・ アメリカで人気の祝日は日本と似ていて他にもどんな共通点があるがさらに知りたいと思った。
森田 凜海
- ・ 日本の祝日や文化を知らない人が多かったので、もっと日本の歴史について発信していきたいと思った。
藤間 陽菜
- ・ アメリカの多民族国家が形成されている背景を学ぶことができた。
渡部 悠太



School Life (学校生活)



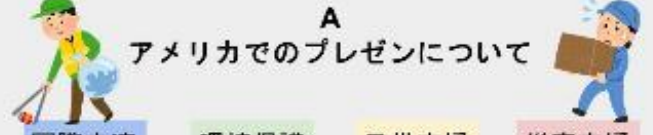
Volunteering (ボランティア) 班

Volunteering
Names: Haruhi Rio Kiryu

Have you tried volunteering?



A
アメリカでのプレゼンについて



国際交流 国際交流 カフェ ハロウィン ビレッジ	環境保護 森林交流 センター ビーチ 清掃	子供支援 子供食堂 イベント 支援	災害支援 西日本 豪雨
--	---------------------------------------	--------------------------------	---------------------------

C
アメリカのボランティア


- ・プランティング
- ・ビーチクリーニング
- ・フードバンク
- ・ナイトマーケットのゴミ拾い
- ・ホームレスシェルター
- ・趣味のポート、小屋の手入れ



B
アメリカでのリサーチテーマ


Questions

- ・ボランティア活動に参加したことはありますか？
- ・日本のボランティア活動に似たボランティア活動に参加したことはありますか？
- ・日本のボランティア参加者多い順クイズ



D
感想

- ・日本人に比べてボランティアに対する関心が大きかった。
- ・日本でも身近なボランティアもあったが、聞きなじみのないものもあった
- ・アメリカのボランティアは、
団体に活動していることが多い



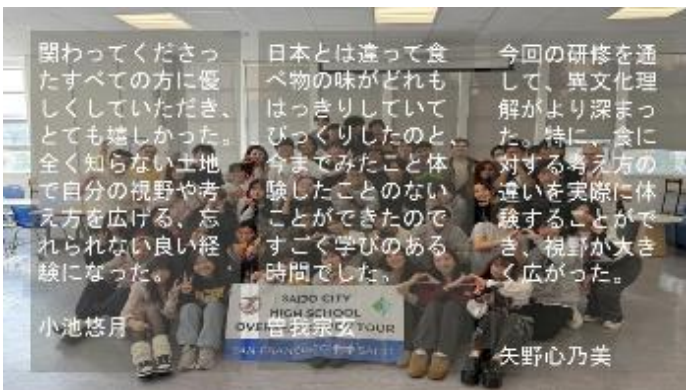
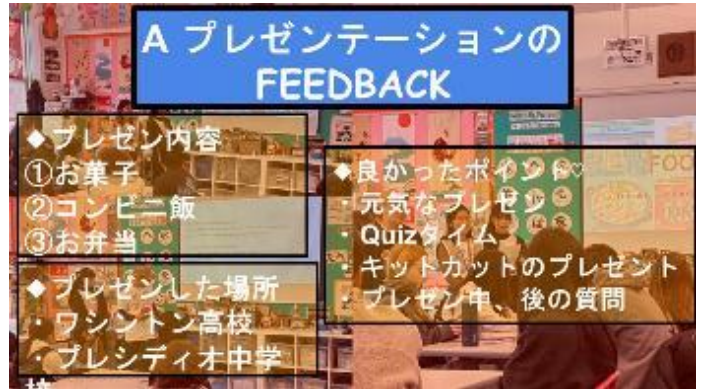
日本では受けることのできない刺激をたくさん受けることができた。とくに、自分が思っていた常識が大きく変えられた。

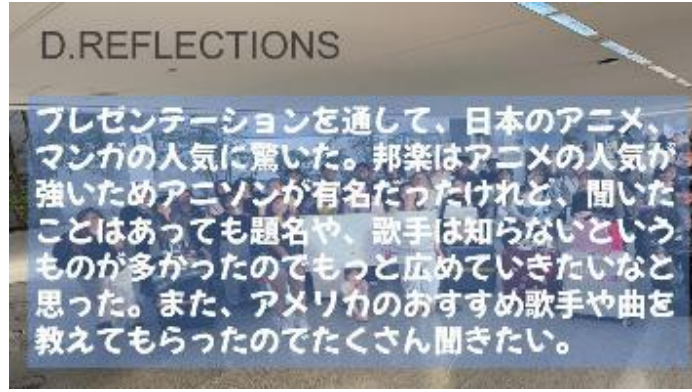
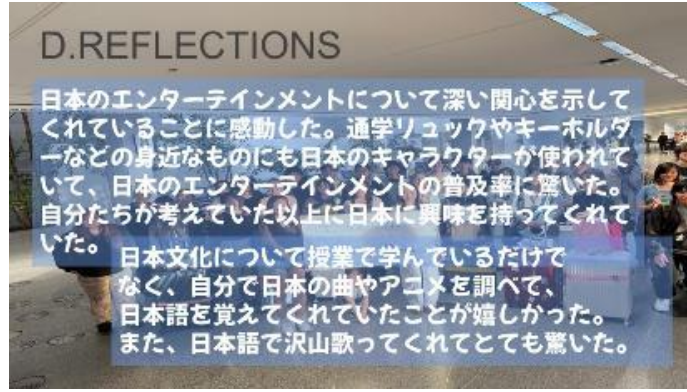
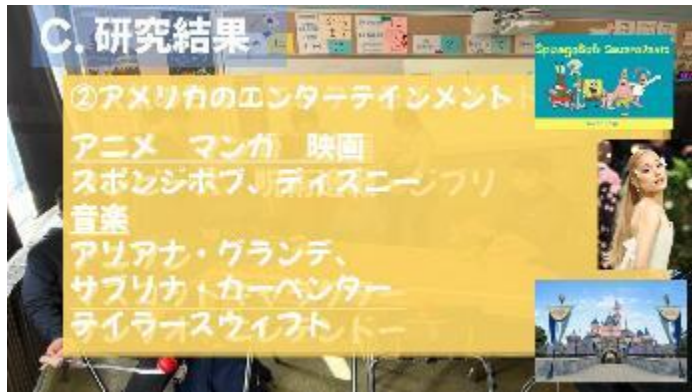
ネットからではわからない「サンフランシスコのあたりまえ」をたくさん知ることができた。理由や背景も共に学べ、有意義だった。

ホストファミリーとの生活を通して、食事をはじめとする現地の生活習慣を体験することができた。日本では体験しきれない貴重な体験になった。



Food (食) 班





サンフランシスコ研修中の様子
サンフランシスコの街を散策



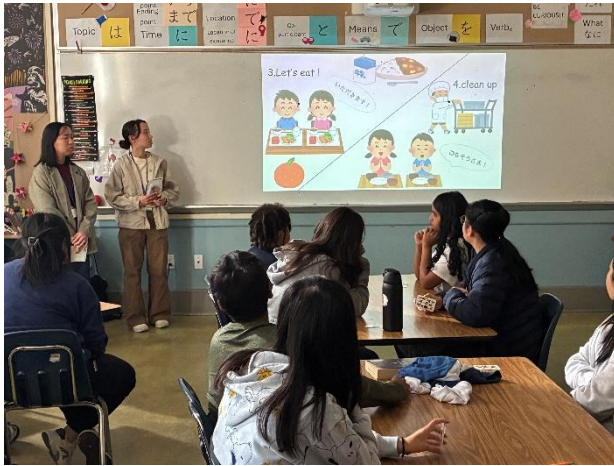
ジョージ・ワシントン・ハイスクール授業見学



カリフォルニア大学バークレー校



プレシディオ中学校でプレゼンテーション&アクティビティ



フィールドトリップ



ジョージ・ワシントン・ハイスクールでプレゼンテーション&アクティビティ



この事業は、故 越智 正夫氏（株）越智鋳造所 元代表取締役）及び（株）レクザムからの寄附金を積み立てて運営している西条市国際交流基金から一部補助を行い実施しています。

